

つながりを求めて



特定非営利活動法人なら人権情報センター

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL 0744-33-8585 FAX 0744-32-8833

E-mail info@nponara.or.jp (担当: 西田・吉岡)

2025年1月

第140号

新年あけましておめでとうございます。NPO 法人なら人権情報センターは、「誰一人取り残さない」やさしさとぬくもりのある地域社会、まちづくりをめざして、地域の人々とつながり、人権を尊重し合える事業を進めています。人権を大切にする気持ち、自分自身を大切にする気持ち、人々とのつながりを大切にする気持ちを育むために、さまざまな研修や講座、学習支援、相談者に寄り添った各種相談事業をおこなっていきます。多くの町民の皆さんの、ご支援、ご参加をお願いします。

中学生の学習支援を通して生きるための力を育む事業

かいほう塾

- ・開講日：原則毎週木曜日 19時～20時30分
- ・場 所：三宅町交流まちづくりセンター MiiMo
- ・対象者：式下中学校在校生及び三宅町在住中学生



新年を迎えいよいよ3学期。かいほう塾も1月と2月のあと8回です。

日程は下記の通りですので、確認してください。また、2学期末に式下中学校の全生徒のみなさんに参加を呼び掛けるチラシを配布しました。3学期からの参加も大歓迎です。3年生はあと少しで卒業だと思えば淋しいですが、それぞれの進路への出発(たびだち)だと思います。3月に、「3年生を送る会」を企画し開催しようと考えています。

かいほう塾はいつでも参加できます。気軽に一度見に来てください

<かいほう塾の日程>

1月9日(木)・16日(木)・23日(木)・30日(木)

2月6日(木)・13日(木)・20日(木)・27日(木)



第30回 生き生き交流祭

第30回生き生き交流祭が11月10日、三宅町文化ホールのほか、交流まちづくりセンターMiiMo・同広場であった。400人以上が集った。=写真
会場には多くの出店が並び、おでん・焼きそば・うどん・手作りソーセージ・ちぢみ・みたらし・コーヒーなど、さらに新しく、カンボジアカレーやインドネシアラーメンなどがメニューに加わり昼過ぎには完売となる盛況ぶりで、バルーンアートやスーパーボールすくいでもにぎわいました。



10時から華鼓の和太鼓の演奏でオープニング。古川友則・実行委員長と森田浩司・三宅町長のあいさつのあと、キャンディーワンのK-POP、フラワーフィッシュのストリートダンスの披露で会場は盛り上がりました。
ひまわりの家のメンバーはホールでバザー。文化ホールでは、幼児園児の絵画、小学生の作品・絵画の展示のほか、介護事業所「菜の花」と「ぼかぼか」を紹介する展示もありました。

午後は「文化交流」。オープニングは式下中学校の吹奏楽部14人が演奏しました。=写真 続いて、フリージャーナリストの西谷文和さんによる講演「紛争地から見た平和憲法、ガザ・ウクライナ・アフガニスタンの今」が古川沙樹さんの進行で行われました。=写真
西谷さんは取材映像を紹介しながらパレスチナとイスラエルの歴史的経過、現在のパレスチナの状況を報告。そして一旦戦争になれば、終わら



せることは非常に難しい。いかに戦争を起こさせないかが大事だ。トランプがアメリカの大統領になり、イスラエルはますますガザへの攻撃を強める。これ以上の犠牲者を増やしてはならないと訴えました。

このあと、3歳から5歳の幼児園児が「わくわく楽しい音楽会」と題して歌の発表、ひまわりの家と太鼓チーム「コスモス」による演奏があり、ちゅらら〜が「創作エイサー」披露。ラストは劇団かいほう塾が創作劇「君に伝えたいこと〜60歳のラブレターより〜」を熱演。=写真 この劇は小学校2年までしか行けず、字を書けないまま成人し、定年後春日夜間中学に通い、妻にラブレター

を書くことを目標に字を覚えた西畑保さんの生きざまを創作劇としたもの。会場では西畑さん本人の紹介もありました。30回目を迎えた生き生き交流祭は今後も地域の交流を深めていきます。三宅町から事業委託を受けて行うこの交流祭は、子どもからお年寄りまでの幅広い世代が交流を通して反差別・人権尊重を考え、共感しあえる場所をめざしています。



よもやま話

新年あけましておめでとうございます。

2025年という節目の年を迎えました。一人ひとりにとって、今年はいいい年であることを願わずにおられません。私ごとになりますが、私の実家がある、奈良市佐紀町の平城宮跡の北に「佐紀神社」が二つあります。地元では「亀畑」と「西畑」で区別されています。その「西畑」の神社で、正月の準備として、鳥居に門松を飾り、境内には「砂もち」と呼ばれる砂の小山を一面に敷き詰めます＝写真



これは、疫病退散を祈願する風習のようです。「砂もち」は砂の餅ではなく、「砂持ち」で、神社に砂を持ってくるという意味です。過去には多くの神社で行われていたようです。佐紀町周辺のいくつかの神社では、今も正月に行っています。私もこの作業を毎年手伝っています。私の父や祖父、曾祖父が同じことをしてきたのだと思うと何か彼らを身近に感じられるからです。現在でもそうですが、過去には人の力ではどうにもできない災害や疫病が人々を苦しめました。村の鎮守の神社には、苦しむ人々のよりどころとしての位置があったのだと思います。過疎や少子化問題が叫ばれる今日、人と人が繋がっているよりどころ＝居場所を新しく、地域に根ざしたかたちで作り上げていきたいものです。

人権相談

あなたはひとりじゃない！ ～ 一人で悩まないで ～

あなたの身の周りに起きている心配ごと、困りごとをどうしていますか？たとえば子どものことや家族のこと、仕事のことや将来の不安、DVなどがそうです。

友達や家族、公的機関などに相談するのは良しとして「他の人に知られたくない」、「相談するところが解らない」などと考えてじっと我慢している方、いらっしやいませんか？もしかすると解決する方法はあるかも。解決とまではいなくても一筋の光が見えるかもしれませんし話すだけでも気持ちが楽になるかもしれません。どうか一人で抱え込まないで欲しいというのが私たちのメッセージです。まず下記までお気軽にお電話ください。また三宅町人権センター2階相談室で面接相談も行っていますのでご利用ください。（要予約）

プライバシーは厳守いたします。安心してご連絡ください。

三宅町人権相談窓口

奈良県磯城郡三宅町屏風 250-21 三宅町人権センター内
電話/Fax 0745-42-2221 相談日 毎水曜日（11時～16時）
URL <http://www.nponara.or.jp>



答え：下から2行目の右から4列目「視」です。